科目名			担当教員	
社会・集団・家族心理学B （家族心理学）			三谷　聖也	
科目コード	単位数	スクーリング単位	履修方法	配当年次
FC2541	2	1	RorSR（講義）	1年以上
生成AI利用レベル		レポート　：　C	試験（スクーリング含む）　：　C	

※2018年度以降に入学した方が対象の科目です。2017年度以前に入学した方は履修登録できません。
※2017年度以前に入学した方は、「家族心理学」（科目コード：FC2515）を参照してください。

科目の概要

■科目の内容

家族は、人間がかかわりをもつ人間関係や集団のなかでもっとも基本的なもの、つまり「共同生活の最小単位」といえます。歴史のなかで誕生し、ライフコースのなかで形態を変えて存続し、そして消滅し、ふたたび新たな家族として生成されます。私たちは生涯にわたって、家族から大きく影響を受け、また、家族に影響を与えながら存在しています。

家族心理学では、家族をシステムとして理解する視点（家族システム理論）を学び、家族をどうとらえるか、家族をどう見立てるか、家族をどう援助するかについて学んでいきます。また、家族がたどる発達段階について理解し、それぞれの時期に家族が直面する危機とその対応について扱っていきます。

■到達目標

１）システムとしての家族を説明することができる
２）家族が個人に及ぼす影響を説明することができる
３）家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて説明することができる

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」「主体的協働力」を身につけてほしい。

■科目評価基準

レポート評価50%＋スクーリング評価 or 科目修了試験50%

■教科書・参考図書

【教科書】

中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子編『家族心理学ー家族システムの発達と臨床的援助（第２版』）有斐閣ブックス、2019年

（最近の教科書変更時期）2020年４月

（スクーリング時の教科書）上記の教科書を持参してください。

【参考図書】

１）岡堂哲雄編『家族心理学入門（補訂版）』培風館、1999年

２ ）平木典子・中釜洋子著『家族の心理　家族への理解を深めるために（ライブラリ　実践のための心理学 3)』サイエンス社、2006 年
３）一般社団法人日本終末期ケア協会編『家族ケア専門士公式テキスト』アステッキホールディングス株式会社 2025 年
その他は教科書に参考提示してある文献をみてください。

スクーリング

■スクーリングで学んでほしいこと

スクーリングでは、前半部で家族をシステムとして理解する視点を、後半部では事例を交えながら家族面接の方法を扱います。スクーリングを通じて家族を理解し、援助するための視点を習得してほしいと思います。

■講義内容

回数	テーマ	内容
1	家族とは何か	家族の定義、個と家族の臨床
2	家族概念の変遷	家族のとらえ方の変遷を学ぶ
3	コミュニケーション	コミュニケーション理論の基礎を学ぶ
4	家族関係の査定	ジェノグラムとその活用
5	事例検討	構造派家族療法の事例
6	家族面接の方法①	MRI アプローチ
7	家族面接の方法②	ソリューションフォーカストアプローチ
8	家族面接の方法③	ナラティブ・アプローチ
9	スクーリング試験	

※オンデマンド・スクーリングでは、上記の講義内容と異なる場合があります。

■講義の進め方

配付資料をもとにパワーポイントを使用し、具体的な事例を含めながら講義を進めます。

■スクーリング　評価基準

スクーリング試験（100%：持込可）

■スクーリング事前学習（学習時間の目安：5～10 時間）

教科書の 1 章・2 章・6 章・8～10 章・12 章・14 章を中心に読んできてください。
講義内容の関心あるテーマについて、自分なりに学びたいことを考えてきてください。

【参考図書】

若島孔文著　『ブリーフセラピー講義』金剛出版、2011 年
若島孔文・長谷川啓三著　『新版よくわかる！短期療法ガイドブック』金剛出版、2018 年
平木典子・中釜洋子共著　『家族の心理』サイエンス社、2006 年
一般社団法人日本終末期ケア協会編『家族ケア専門士公式テキスト』アステッキホールディングス株式会社 2025 年

レポート学習

■在宅学習 15 のポイント

回数	テーマ	学習内容・キーワード	学びのポイント
1	家族システム理論 （第１章）	家族という事象をとらえるための基盤である、家族システム理論について理解する。 キーワード：社会構成主義、家族システム理論、階層性、円環的因果律、第一次変化と第二次変化	身の回りの家族を例にして、家族をシステムとしてみてください。家族をシステムとしてとらえることができると、２回目以降の学習内容がより深く理解できます。
2	家族を理解するための鍵概念 （第２章）	家族という事象をとらえるための３つの鍵概念ー構造、機能、発達について理解する。 キーワード：構造、機能、発達、ジェノグラム、エコマップ	身の回りの家族を例にして、ジェノグラムとエコマップを描き、学習内容を整理してみましょう。
3	独身の若い成人期 （第３章）	若い成人期の発達課題と危機について理解する。また、将来の家族形成に向けた予防的アプローチについて理解する。 キーワード：親密性、親密さへの恐怖、自己分化、情緒的遮断、親役割代行、配偶者選択、アサーション	家族という事象は、結婚する前の若い成人期、あるいはそれ以前からすでに始まっていると考えられます。三回目は、若い成人期のどのような側面が後の家族生活に影響するか、といった点について理解してください。
4	結婚による家族の成立期 （第４章）	新しい家族生活のスタートとなる新婚期の家族の発達課題と危機について理解する。 キーワード：家族システムの結合、非合理的思い込み、カップルダンス	夫婦は家族の最も基本的かつ中心的なサブシステムです。夫婦が新婚期にどのような課題に直面するか予測できると、夫婦で課題と危機に対処することができます。４回目は、新婚期の家族が危機を乗り越えるためには、夫婦のどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
5	乳幼児を育てる段階 （第５章）	妊娠・出産・子育てによって生じる家族の発達課題と危機を理解する。 キーワード：伝統的性別役割観、仕事と家庭のバランス、拡大家族、親の機能、父親の育児参	乳幼児を育てるなかで、夫婦関係は変化し、夫婦の役割は変更されます。夫婦が子育てに取組み、父親が子育てに積極的に関わることができるようになることが大切です。５回目は、育児期の家族が危機を乗り越えるためには、夫婦のどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
6	小学生の子どもとその家族 （第６章）	小学生の子どもとその家族の発達課題と危機を理解する。 キーワード：エアポケット、発達の加速現象、三角関係、養育システムの再編成、成員の個性化、ギャング・エイジ	思春期の子どもは、発達・成長が著しく、学校など家族以外の場面のなかで精神的に成長します。６回目は、学童期の子どもがいる家族が危機を乗り越えるためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
7	若者世代とその家族 （第７章）	青年が親離れする過程、親が青年を手放していく過程で生じる、家族の発達課題と危機について理解する。 キーワード：移行期、チャムシップ、ピア関係、自我同一性、	思春期・青年期に入った子どもは自立の準備を進めていきます。７回目は、中年期の家族が危機を乗り越えるためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。

8	老年期の家族 （第８章）	高齢期の家族が抱える発達課題と危機について理解する。 キーワード：人生の統合、多世代の関係性の再構築	高齢者やその家族は、ケアが必要な「受け身の存在」になりやすいです。このような中で、高齢者と家族がより自律的に活き活きと暮らすためには、家族メンバーのどのような行動が助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
9	家族への臨床的アプローチ （第９章）	家族療法の発展史、代表的な理論モデル、他のアプローチとの違い、代表的な技法について理解する。 キーワード：多世代家族療法、構造的家族療法、MRI 家族療法、ミラノ派家族療法、ソリューション・フォーカスト・アプローチ、ジョイニング、多方向への肩入れ、リフレーミング	４回目から８回目までの裏テーマになっていたのは「家族内のルールの変更」でした。家族療法の理論モデルはいずれも、家族内のルールの変更を支持し、家族が自律的に問題を解決することを援助するものです。９回目は、個人を対象とする心理臨床と、家族を対象とする心理臨床の違いは何か、という観点から家族療法について理解してください。また、コラム⑨「家族療法の魅力」を読み、家族療法の特徴について理解を深めてください。
10	夫婦関係の危機と援助 （第 10 章）	夫婦関係の危機とカップル・セラピーについて理解する。 キーワード：カップル・セラピー、離婚のプロセスと発達課題、再婚家庭のプロセス、ステップファミリー	現代の家族のあり方は多様であり、離婚や再婚など人々が選択する家族の形はさまざまです。10 回目は、離婚と再婚のプロセスについて特に整理してください。 そのうえで、カップル・セラピーの留意点について、カップルとセラピストそれぞれの観点から理解してください。
11	子育てをめぐる問題と援助 （第 11 章） 発達障害と家族支援 （第 12 章）	社会の守りの中での子育ての必要性について理解する。 キーワード：児童虐待、育児不安、親支援、親業トレーニング、家族再統合プログラム、発達障害児・者、ライフデザイン	いつの時代でも、地域や親族の支えがないと家族は子育てをすることができません。孤立した環境のなかで「育てにくい子ども」を育てている親だけでなく、多くの親は育児への不安とストレスを抱えながら子育てをしています。11 回目は、親支援や子育て支援のプログラムおよび発達障害児・者とその家族の支援について理解を深めてください。
12	家族が経験するストレスと援助 （第 13 章）	災害、病気、子育てなど、家族が経験するストレスと援助について理解する。 キーワード：あいまいな喪失、グリーフ（悲嘆）、段階理論、ウェルビーイング、医療的家族療法、リジリアンス、多世代家族療法、ナラティヴ・アプローチ	問題を抱えない家族は存在しません。12 回目は、自然災害、家族メンバーの喪失、一過性・慢性の病気への罹患、事件や事故への遭遇などを取り上げます。そして、どのような行動が家族メンバーの助けになるのかについて、それぞれの家族メンバーの立場から考えてみてください。
13	家族の中のコミュニケーション （第 14 章）	家族療法のコミュニケーション学派の理論について理解する。また、DV と暴力のサイクルについて理解する。 キーワード：コミュニケーションの公理、ダブルバインド仮説、コミュニケーションの悪循環、解決志向アプローチ、家族神話、DV、暴力のサイクル、アサーション	セラピストのツールは、単純化すると言葉のみです。「言葉はもともと魔法である」といわれるように、セラピストは「言葉」により「変化」を作っていきます。13 回目は、このような考えの基盤となる、コミュニケーションの 5 つの公理を理解してください。また、「解決しようとすることが問題を維持させる」というパラドックス（逆説）についても理解してください。身の回りの家族を例にすると、学習が深まります。

14	女性と家族 （第 15 章）	家庭内外にあるジェンダーの問題を扱い、ジェンダー・センシティブな心理療法のあり方について理解する。 キーワード：ジェンダーのレンズ、ジェンダー・センシティブ・サイコセラピー	社会文化に敏感な視点をもった心理療法は、それ自体が単独で成立するものではなく、あらゆる心理療法に浸透するべき要素です。14 回目は、ジェンダー・センシティブな心理療法のあり方について、もっとも重要な事項はなにかを考察してください。その際、コラム⑭「心理療法に必然的に生じる“力関係”にどう取り組むか」を読み、理解を深めてください。
15	男性と家族 （第 16 章）	父親と夫をどう理解し援助するかについて理解する。 キーワード：パワーとコントロール、恐れと思い込み・信念	夫・父親をどのように理解し関わることがより効果的な援助につながるのだろか。15 回目は、父親や夫であることをめぐる葛藤と不安について、理解を深めてください。

■レポート課題

1 単位め	「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。
2 単位め	コミュニケーションの 5 つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明しなさい。

※提出されたレポートは添削指導を行い返却します。

■アドバイス

【1 単位めアドバイス】

教科書をよく読み、「TFU オンデマンド」上で客観式レポートに解答してください。

【2 単位めアドバイス】

家族心理学と家族療法は家族のコミュニケーションを重視しています。ポール・ワツラウィックらは、これをコミュニケーションの語用論として概念化し、5 つの「公理」を示しています。これはコミュニケーション理論とも呼ばれます。コミュニケーション理論のなかで最も重要な考えは、“拘束（Bind）”です。拘束とは、あるメッセージは一義的には受け手の反応を決定しないが、その反応の選択肢の幅を狭める、ということです。たとえば、「ばか！」と言うと、相手は「ばかとは何だ！」となるか、「どうしたの？」と反応します。ここで、急に踊りだすことは稀でしょう。このように、A さんの行動は、無数にある B さんの行動の選択肢を狭めることになり、さらには、B さんの反応が無数にある A さんの行動の選択肢を狭めることになります。したがって、コミュニケーションは“相互拘束”であると考えることができます。このようなコミュニケーション観は、私たちが一般的に理解している「コミュニケーションはお互いに思想と感情を通わす相互理解である」という観点とは異なるものです。このような新しいコミュニケーション観によって、家族がどのような状態なのか、家族の変化はどのように起こるのかを検討することができますし、家族療法家はコミュニケーションを使って家族の変化を家族とともに考えていくことができます。

以上を理解したうえで、コミュニケーションの 5 つの公理について、それぞれ具体例を示しながら説明してください。

課題については、テキストならびに関連参考書を読んで、丸写しにするのではなく、自分の言葉で理解された内容をまとめるように心がけてください。

科目修了試験

■評価基準

科目修了試験では、家族がたどる発達段階と危機、援助のポイントについて論述形式で出題します。教科書で学んだ内容とキーワードを自分なりに理解しているか、具体例を示しながら論述できているかという観点から評価します。